

留学生の声

塾内在籍校・学年(派遣時)	慶應義塾中等部 2年
留学先校名	Winchester College
留学期間	2019年9月から 2020年7月まで

どのようなことを期待して渡航しましたか？

アメリカに住んでいたのは小学校低学年までだったので、英語のスキルのブラッシュアップを期待しました。また、異なる環境のもと、ハイレベルな授業で自分を試してみたいと思いました。Winchesterで行われる Div という授業は日本にはなかったので一番興味を持ちました。最後に自分のサッカーがどこまで通用するのかサッカーの本場イギリスでプレイしてみたいという期待もありました。

留学に向けて、どのような目標を立てましたか？

現地の授業についていくことと、サッカーでは常に一番上のチームでやっていくこと、いっぱい友達を作るとにかく楽しむことを目標に頑張りました。また、学問の面では Winchester の先生の期待を“絶対に裏切りたくない”という気持ちで勉強に励みました。この気持ちは留学前からあったものではなく、現地の先生が僕に期待を抱いているように感じられたことによります。化学の先生に“今は君はこのクラスには適していないかもしれないけど三学期が終わるころにはこのクラスが君の居場所だ”という言葉がかけられたことで頑張ろうと思いました。

留学先では、期待どおりの生活を過ごせましたか？ 留学先の良かった点・悪かった点も教えてください。

最終的にはコロナによる緊急帰国という残念な形で終わってしまいましたが、一年を通じてとにかく楽しく生活ができ日本では得られないような経験ができました。マイナスなこともありましたが、補って余りあるほどプラスな面が多かったです。

【良かった点】

- ・みんな初めての僕に快く接してくれた。
- ・寮の同級生はほかの寮にはない団結力があつた。
- ・サッカーをする環境が素晴らしかった。
- ・先生、生徒両方が質問をするため議論することが多く授業がつまらなくなることはなかった。
- ・少人数だから発言の機会が多い。
- ・日本だと一つのスポーツに集中しがちだが、いろいろなスポーツができた。
- ・宿題の量が一定に保たれているため、取り組みやすかった。
- ・買い出しやデリバリーができるため、時には食べたいものも食べられた。
- ・集団生活が楽しかった。
- ・寮の設備が思っていたよりよかった。

【悪かった点】

- ・一学期の朝はほぼ毎日「霧」であった。
- ・ホームステイ先が遠い場所が多かった。
- ・ロンドンに一度も行けなかった。
- ・ホームステイ時には個人行動ができなかった。
- ・一度やってみたかった、クリケットができなかった。

課外活動は何をしていましたか？

課外活動ではサッカー、フットサル、スカッシュ、マラソン、ジム、ウインチェスターフットボールをしました。

〈サッカー〉

一学期の間は週に五回練習か試合があり、多い時には週に三回試合がありました。学年で一番上のチームでプレイすることができました。また、一学年上のチームの練習と試合にも何回か参加しました。グラウンドがすべて天然芝生であり、ほぼ毎日芝の整備がされていることから最高な場所でプレイをすることができて本当にいい経験でした。また、一学期の最後にかけて、寮ごとに一・二年生の合同チームを作って競う学校

内の大会がありました。その大会の決勝で僕は1ゴール1アシストで宿敵の toys チームに同点まで迫りましたが、最後に僕がPKを外して負けたことは悔しくて昨日の様に覚えています。

<スカッシュ>

このスポーツを知るきっかけとなったのは、二学期に入りサッカーの練習が毎日ではなくなり、つぎに何をするかを迷っていた時に友達と一緒にやろうと誘ってきたことです。このスポーツに僕は一時期熱中しサッカーの練習があってもスカッシュの方を優先してやる日もさえありました。単純だからこそスキルを磨くのが難しく奥深いスポーツです。ホームステイ先のお父さんにスカッシュのプロを見てみたほうが良いといわれ見てみると俊敏さと圧倒的なスキルに驚きました。スカッシュは自分の寮でもできたため、いつでもプレイすることが可能でした。

<マラソン>

一学期に行われた中学生のマラソン大会で八位になり、高校生が走る大会にも出場することができました。そこでは三十三位に入ることができました。これをきっかけに二学期に入り友達に誘われマラソンしに行く日がありました。ウインチェスターは自然に囲まれている学校であり走るコースもたくさんありました。

短期・長期休暇はどのように過ごしましたか？

中学生であることから一人での外出は許されなかったため、自由に観光することができませんでした。しかし、ホームステイ先の家族と仲良くなり、できるだけ手伝うように心がけていました。また、多くのホームステイ先で犬が飼われていることが多かったため犬の散歩はいっぱいしました。子供がいる家族では一緒にサッカーやキャッチボールをしました。しかし、一カ月の休暇を一学期の時に日本に一時帰国をし、二学期はコロナウイルスの影響でかえって来ることになったため、長い時間をホームステイ先と過ごせなくて残念でした。

授業について

授業は一コマが35分で、集中力が切れず、ちょうど一つトピックが終わることから、個人的にはちょうどいい時間でした。自分で好きな科目を受けることができるので、興味がある科目を数多く受けることができましたが、自分の学年では履修科目は9つもあり、高校生と比べると授業の時間数ははるかに多いです。テストは一年に一回しかありませんが、科目ごとに小テストが沢山あります。成績は小テストと理解度で評価され、ほかにも授業貢献度の項目もあります。もっとも印象に残ったのはみんな授業中に先生にわからないことがあれば何回でも質問をし、先生の問いに答えたいとみんな手を挙げていました。そのため、より活発な授業になり自分も質問をすることによって分からないままのところを残さないようにしました。みんなが手を挙げているため、自分があてられるのはせいぜい一コマで1、2回です。それでも、分からないことがあれば授業が終わってから先生によく質問をしていました。授業への積極的な参加は日本と比べて大きく違うと思いました。

宿題について

ウインチェスターでは、毎日二時間分の宿題が出され、分量的には多すぎることもなく少なくもありません。日にちによって各先生が宿題を出す時間が決まっているので、その日に何をしなければいけないのかもわかりやすいです。また、土曜日にはDivの宿題が出されます。Divの宿題は土曜日全部に割り当てられているため、長いエッセイを書かされる時もあればクリエイティブな課題が出されることもあります。

リモート学習について

授業での進め方でオンライン授業によって一番変わったことといえば、友達同士やクラス全体での話し合いが少なくなったと思います。そのため、授業では先生が一番長く喋り、生徒はそこまで発言しなくなったと思います。また、質問をするのも難しく先生の話なるべく遮りたくはないが、手も上げることもできないためコメント欄のところに書く人もいますが、先生が気づかないこともよくあります。また、周りの状況がよくわからないため、みんなで一斉に喋りだしてしまうこともありました。授業で先生が説明したいときは画面共有をして説明してくれます。問題はone noteかdesmosというアプリを使って先生が常に生徒の進み具合をチェックできるようになっています。また、宿題は授業の中に含まれており毎日二時間の宿題をやる時間が無くなりました。例えば、化学は一週間の中で四コマありその半分の授業時間は宿題をやる時間(non-contact hour)でもう半分は実際のオンライン授業(contact hour)があります。そのため、月、水、金の午後の授業は宿題をやる時間(non-contact hour)になっています。実際のスカイプがないため、イギリス以外の外国に住んでいる人でも宿題さえやれば問題はありません。オンライン授業があるかないかは自分のカレンダーに予定を入れてくれます。宿題は現地にいたときとほとんど変わりませんでした。

今後の派遣留学生へのアドバイス

パソコンを多く使用することになることになるので操作方法などに慣れておいたほうがいいです。タイピングが早い人が多いので、タイピングは早いほうが有利だと思います。

分からないことがあればすぐに聞く、自分の意見を述べるなど授業には積極的に参加しましょう。積極的に数多くの課外活動に参加することによって友達が増えます。

日本の文化のことを知らないことに気づかされたので、日本の文化を事前に考えておくといいです。イギリスの政治に詳しいと授業についていきやすいし、Divなどで議論する際に役に立ちます。化学の物質の名前を英語で覚えておくといギリスで助かると思います。

目標を立てて生活することを勧めます。さもなければただただイギリスで過ごしてしまうでしょう。ほかの人からは指図をあまり受けないので、比較的に自由であるあることから、自分で考えて行動しましょう。

学期ごとにスポーツが変わるので事前に自分のやりたいことを考えておくといいいと思います。

以上

